昭和61年3月15日
第30号

大阪産業大学校友会報

発行所　大阪産業大学校友会
〒574 大東市中垣内3の1の1
電話(0720)75－3001(内線 381)
(0720)75－3040(直通)
郵便振替口座番号
大阪89325

OSAKA INDUSTRIAL UNIVERSITY

第17回代議員会報告

〈61年度予算・規程改正〉

昭和61年2月15日に三重県鳥羽市安楽島町で約70人が参加して代議員会が開催された。司会の大久保修氏より開会が告げられ、議長に金住順二常任幹事、副議長に川本一雄幹事を選出し会長挨拶、経過報告の後に議事に入った。

昭和61年度予算について

池田副会長より予算案の主旨説明があり、原案通り可決した。

会報購読料に関する規程の改正について

真田副会長より会費規程の一部改正を行ない、61年度より会報購読料無料化を実施し、現在までに購読料を納入している人で、一年分以上残金のある校友には、図書券等で返還する。そのために予算案の中で編集部に予備金の項目を置き、約九百五十名、金額で百三十万円を払戻すための予算措置を取りましたと説明があり、会費規程第三条購読料の項を削除したいと提案があった。この件に関して校友から「購読料残金が二千円ある人に、一律に図書券で返還ではなく他の方法論も考えて欲しいと要望があった。会費規程の一部改正については原案通り可決された。

懇親会

光岡副会長の挨拶で始まり伊藤吹田支部長の乾杯の音頭で賑やかに幕をあけ、あちこちで旧交を温めあう姿や、今後の校友会の発展について話し合う人達、自己紹介やカラオケと続き、最後は皆なで校歌をうたい、終宴となった。

追記

翌16日は、あっと言うまに雪が積もり見学の参加者も予定より少し減り、26名で鳥羽水族館でラッコとジュゴンを見学、11時27分鳥羽をたって帰阪の途に着く。

――江戸の野崎詣――

ここに松山半山の浪華勝槩帖に画かれた、野崎詣の風俗画がみられる。寝屋川に屋形舟が行き、人々みな談笑しながら野崎山に向ったのであろう。江戸の風物のどかで自然の中に、生活が宗教がいきぶいているのだ。

今では寝屋川もコンクリートで固められ、屋形舟ならぬシュンセツ舟が川底をさらえている。どこをみても菜の花はみあたらず、家ばかり狭しとならんでいる。せめて画なりにでも、昔の風情を残してもらいたい。

◎浪華勝槩帖　江戸時代末の大阪の風景・風俗を数名の画家が分担して描いたもの。

写真など大阪市の「いちょう並木」社会教育情報誌より流用させてもらいました。

部門予算の特徴(会報購読料の無料化)

総務部　本年9月に本館（11号館）への引越が予定されているので、新事務室への転居に伴なう、什器備品などの関係予算が組込まれている。予備金については、他部門の残額をまとめた形で総務部に計上されている。

運営部　今年度は総会関係の経費を重点的に増額し、その他の関係は据置きにした予算となっている。

編集部　昭和61年度予算の特徴は、編集部の予算において会報の春号を全員に無料で送付することにしたことである。この会報無料化に伴なう経費の増額が、印刷費と通信費の項目に行なわれている。また予備金では、これまでの会報購読料納入者（約950名）に対して払戻しをすべく、既に納入金130万円程を返還するため計上されている。

支部推進部　昭和60年度、はじめて支部長会を総会に合せて行なったが、好評であり、今年も同じ形で行なう予定にしている。そのための関連予算を編成しなおしている。

積立金について

積立基金は、今年度も経常予算より繰入れは行なわれなかった。昭和60年度の支出は、補正予算により前回のS.53年と同額2,000万円以内の支出が計画された。具体的な品物としては、緞帳1,310万円、岬研修センターへ自転車など405,400円の支出が決定した。その後、昭和61年3月末までにタペストリー（新本館の玄関横に設置）約280万円やテント20張など学園側と話し合いがもたれている。大学の記念事業にふさわしい寄贈が行なわれることであり、新本館のオープン披露がまたれる。

昭和61年度予算としての積立基金は、60年度と同じく補正予算を必要時に組むことによって処置することになっている。補正予算方式であれば、学園からの要望と校友会との意向との調整が容易であり、大学キャンパスにふさわしい寄贈が行なわれることになる。

会費規程

（目的）

第1条　この規定は、大阪産業大学校友会会則第5条の会費について定める。

（会費）

第2条　会費は、20,000円とし、入学時に徴収する。

削除

（購読料）第3条
会紙の講読料は、年500円とし、4ヵ年分を一括して徴収する。但し、新卒者は、卒業後4ヵ年に限り講読料の徴収はおこなわず会紙を発送する。

付則

1．この規程は、代議員会の議決により改正することができる。

2．この規程は、昭和54年10月28日より施行する。
（昭和56年2月28日　一部改正）
（昭和61年2月15日　一部改正、購読料について削除）

昭和61年度予算表(単位＝千円)

収入の部	総務部	運営部	編集部	支部推集部	合計
前期繰越金	5,000				5,000
校友会費	36,000				36,000
会費収入	36	975	0		1,011
雑収入	1,240	170			1,410
計	42,276	1,145	0		43,421
				預り金	18,000
				合計	61,421

支出の部	総務部	運営部	編集部	支部推集部	合計
会議費	1,040	1,450	70	970	3,530
総会費		6,100			6,100
通信費	470	100	2,640	200	3,410
印刷費	350	250	100	260	960
備品費	600				600
旅費交通費	380	430	30	1,570	2,410
慶弔費	400	200			600
消耗品費	200		500		700
会員名簿			1,300		1,300
機関誌			2,640		2,640
記念品費		1,375		60	1,435
学生助生金		4,000			4,000
支部準備金				1,720	1,720
調査費			800		800
広報費		300		600	900
人件費	900	900	900		2,700
雑費	300	400	100	50	850
記念事業費	3,000				3,000
予備費	2,606	770	1,920	470	5,766
計	10,246	16,275	11,000	5,900	43,421
				預り金	18,000
				合計	61,421

〈特別会計〉

昭和61年度積立基金予算

59年度より	繰越金	155,691,189
60年度	受取利息(予算)	11,000,000
61年度	受取利息(予算)	11,000,000
計	(収入)	177,691,189
60年度	記念名簿へ支出	5,000,000
	記念募金へ支出	20,000,000
	(緞帳)	(13,100,000)
	(岬研修センターへ)	(405,400)
	(タペストリー・テントなど)	(6,494,600)
計	(支出)	25,000,000
昭和62年3月31日現在残高		152,691,189

支部のページ

■大学支部

西島理事長を迎えニューイヤーパーティ

寒さがことのほか厳しい毎日が続くなか、新年に行なわれている支部総会を、今年は気分も新たにということで1月11日に会場を毎年恒例の「魚捨」から心斎橋の「鹿鳴館」に移し、会員多数の出席のもと、大久保(惨)副支部長の司会で、議長に大平氏、書記に上垣氏を選出、金住支部長の挨拶後、議事に入った。来年度の支部活動は役員に一任され、また会員からは、家族同伴で総会を行なうことが提案されました。

総会終了後、懇親会に移り、小雪の降る中にもかかわらず西島理事長をはじめ来賓多数のご臨席をいただき、なごやかに親睦を深め、大学の将来を話し合うなど、実り豊かな宴となりました。

大学は開学20周年を迎えますます発展の一途をたどり、また大学支部においても、昭和50年11月に会員数46名で発足して、はや10年が経過し、現在では78名が結集しています。役員をはじめとして、全会員で学園はもとより、支部の発展向上に努力していきたいと思います。

■三重県支部

第3回三重県支部総会開催さる

立春も過ぎた2月9日(日)第3回三重県支部総会が開催された。

近鉄電車津駅から徒歩約5分ほどにある三重県教育文化会館で行なわれた。総会は午後1時の定刻から始まり、決算報告・役員改選など予定通りに無事終了した。来賓挨拶では三重県出身の木平孝男先生、そして本学から坂本勇先生が述べられた。両先生共、現在の技術について、そして将来の技術を述べられ、「これから何をなすべきか?」の指導を伺った。出席者は久しぶりに学生時代に戻った気持ちで挨拶講義に聞き入っていた。

午後2時から席を変え、懇親会に移った。懇親会は自己紹介などを行ないながら和気あいあいと進み、午後5時30分ごろ名残惜し気持を抱きながら、支部総会のすべての行事を終了した。久方振りの集い、後は2次会に行くなり、パチンコに行くなり、諸先輩方ごゆっくりと旧交を温めあって下さった。

支部役員紹介

支部長……山本孝文(機械2期卒)
副支部長……小林幸弘(交短16期卒)
副支部長……野上豊(経営1期卒)
副支部長……中村礼司(機械2期卒)
会計……水野直樹(土木4期卒)
会計……増田伸博(土木7期卒)
会計監査……渡辺優(経営4期卒)
会計監査……宮崎一美(土木7期卒)
顧問……瀬島順一郎(大学助教授)
顧問……梅原一男(機械1期卒)

■福井県支部

北陸に新拠点!!
福井県支部十八番目の支部として設立。

かねてより校友会本部の指導で、設立準備が進められていた福井県支部は、十一月十一日(日)、設立されました。

当地は、学園本部理事長西島伊武先生の出身地であり、会員数一七二名と比較的まとまっており、また北陸地区の拠点として支部設立が望まれていました。

当日は、北陸地方特有のみぞれまじりの雨模様の中、会場の福井ステーションホテルには、設立の労をとられた小泉広美氏以下の地元会員二十三名が集っていた。

学園より古谷常務理事、校友会本部より里会長、真田副会長ほか支部推進部三名の合計二十八名が集いました。

設立総会は、小泉支部長の設立主旨報告に続き、万場一致で、支部の発足が了承されました。

総会に引き続き懇親会が催され、世代は異ってもそこは同窓生、話が弾み、カラオケの学生時代の思いでや、名調子も加って、賑やかお互いの仕事の内容などうちにお開きとなり酒がすすむにつれて ました。

役　員、福井県支部の役員は、

顧問――西島理事長　副支部長―貝谷信雄
支部長――小泉広美　会計――佐々木英樹
副支部長―結城　長　会計監査―木村義文
副支部長―山本明敏　会計監査―西水重康
副支部長―山崎外志夫

今後ますますのご発展を祈ります。

■岡山県支部

第5回岡山県支部総会

数日前の寒さとは打って変わり、暖かくなった。昭和60年2月23日(日)、正午より、第5回岡山県支部総会が、岡山駅前のターミナルホテルで開催された。

この日の総会は、学園本部より大西利治副理事長（岡山県支部顧問）をはじめ校友会本部役員、奈良、大学支部の代表者の出席のもと、芦田正之氏の司会で進められた。

まず、光岡明弘支部長の支部総会開催の挨拶に続いて、大西副理事長が挨拶に立たれ、大学開学20周年、学園創立60周年を迎えた大阪産業大学のたくましい発展ぶりなどが照介された。総会議事では、同支部活動報告、会計報告などが承認され終了。

つづいて、懇親会へと会場を移し、高杉日出喜智副支部長より開会の挨拶、奈良県支部長花崎博美氏の乾杯の音頭で和やかに進められ、中でも先の総会議事終了時に、光岡支部長より出された奇抜なテスト（校友会会長の名前は?、学園の女生徒の数は?……など、現在の大学、校友会についてどの程度知っておられるか）の結果がパーティーの席上で発表されるたびに爆笑の渦となるなど、とても楽しい懇親のひとときでした。

最後に大阪産業大学校歌を歌い、岡山県支部の発展を願って、水戸岡博志副支部長による万才三唱でお開きにしました。

（金住記）

校友会本部出席者（金住、大瀬戸、椿野）

The Department of Economics

経済学部 経済学科

世界を視野に、明日の動きを捉える経済学部。

新しい経済学部は、理論・政策・歴史からなる学問体系の三つを柱にしている。これらの分野を体系的に修得し、変化する経済に対応する基礎知識と専門的能力を養い、論理的思考力をそなえた学生を育成することを目指している。

本学部の教育研究システムの特徴は、第一に、近代経済学の学問体系を軸とする教育研究体系を整えたことである。第二に、交通経済・産業経済という本学の教育研究の伝統をふまえ、応用経済学の分野の充実を計っている。第三に、最近コンピューターによる情報処理・経済分析の技術的進展がみられるが、本学部ではコンピューター関係科目の充実と教育設備の整備を計り、優れた教授陣をそろえ、充実したコンピューター教育のシステムを整えている。

このような教育システムにより、「経済学コース」と「産業経済学コース」の二つのコースをおき、学生の自主的な選択にゆだねている。この二つのコースはいわば基本と応用の関係にあり、基礎能力を身に付けてから、各専攻分野においてより深く学べるように配慮している。

本学部の教授陣は、各専門分野で優れた業績をもつ著名なる教授を中心に編成されている。この経済学部の質的水準の高さは、これからの情報化社会にいかんなく発揮されるものであり、大きな発展が期待されている。

経済学部長
教授
尾上久雄先生

■経済学部 経済学科担当教員

経済学部長 教　授	尾上　久雄	現京都大学教授 経済学博士	経済政策・日本経済論・経済体制論
教　授	安藤　精一	現和歌山大学教授 経済学博士	日本経済史・商業経済史
〃	今野　修平	現福井医科大学教授	産業政策・経済地理
〃	坂本　慶一	現京都大学教授 農学博士	農業経済論・地域経済論
〃	杉浦　一平	現和歌山大学教授	統計学・情報処理論・情報処理実習
〃	竹村　民郎	大阪産業大学経済学部 設置準備室長	経済史
〃	谷山　新良	現大阪府立大学教授 経済学博士	産業構造論
〃	永井　健	元大和銀行常務取締役国際部長	金融論・国際金融論
〃	菱山　泉	現京都大学教授 経済学博士	経済原論・経済学史
〃	松尾　博	現滋賀大学教授 経済学博士	経済原論
助教授	西岡　教明	現九州産業大学助教授	経済成長論・国民所得論
〃	福井　幸男	現大阪工業大学講師	計量経済学・経済統計
講　師	木立　力	大阪産業大学	社会保障論
〃	衣笠　達夫	現兵庫県庁企画部主査	公共経済学
〃	黒木　龍三	大阪産業大学	価格理論
〃	斉藤日出治	名古屋大学大学院(修士)	経済学方法論
〃	高増　明	大阪産業大学	国際経済学
〃	林田　治男	大阪産業大学	経済学概論・近代経済学史

ひとことだより

※野球部の関西地区代表決定戦に妻子をつれて応援に行きました。残念ながら、仏大、竜大に破れましたが、久しぶりに後輩のはつらつとしたプレーを見て大変うれしく思いました。自宅が大和郡山球場の近くで、新人戦そして阪神リーグの閉会式を見る事が出来ました。今後のご活躍をお祈り致します。

出来ましたら産大速報と野球日程など知りたいのですが…？

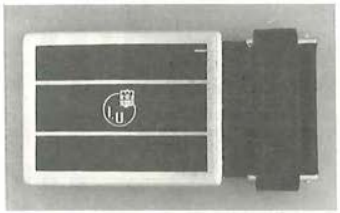
経営7期卒　今西　信博

11/24神戸にてS44、Ⅱ部交機入学生有志、同窓会を開きます。12～14名程参加の予定。

交機5期卒　岡本　修一

記念募金のお願い

大学開学20周年――学園創立60周年



今年は記念すべき年、標記の募金活動を行なっております。記念事業には前回の会報の表紙にありました、11号館の建設を始め多くの事業が計画されております。卒業生が募金すれば、写真のバックルとベルトをお送りします。詳細については、ご連絡があればお送りします。

記念品の内容

- 1口(5,000円)……写真のバックルのみ
- 2口(10,000円)……写真のバックルとベルト

記念名簿の受付

(予約申込み受付け中)

下記要領にて名簿を発行するはこびとなりましたので、この際ぜひ購入されますよう、お進めいたします。現在、部数に若干の余裕がありますので今回ぜひご予約ください。

- ○本文総頁　約1,000頁
  卒年順、50音別氏名索引
  会社名別索引、地域別索引
- ○B5サイズ　表紙クロス貼り
- ○発行部数　3,000冊
- ○発　　行　昭和61年4月
- ○予約価格　6,000円(送料1,000円含む)
  頒布価格　9,000円(送料1,000円含む)
- ○申　込　み　現金書留
  郵便振替口座　大阪3-5211
- ○予約締切　昭和61年4月10日（以降は予約扱いいたしません）

昭和58・59年度講習会及び認定試験結果一覧表

●58年度

学科	講習会受講者数	受講者内訳 卒業者数	留年者数	除籍者数	講習修了者数	受講放棄者数
Ⅰ部交通機械工学科	159	159	0	0	158	1
Ⅱ部交通機械工学科	87	86	1	0	86	0
短大自動車工業科	344	324	19	1	324	4
計	590	569	20	1	568	5

●59年度

学科	講習会受講者数	受講者内訳 卒業者数	留年者数	講習修了者数	受講放棄者数
Ⅰ部交通機械工学科	143	143	0	141	2
Ⅱ部交通機械工学科	71	71	0	69	2
短大自動車工業科	360	351	9	351	0
計	574	565	9	561	4

●58年度

学科	認定試験（2級ガソリン） 申込者数	受験者数	未受験者数	合格者数	合格率(%)	不合格者数	留年者数	除籍者数	認定試験（2級ジーゼル） 申込者数	受験者数	未受験者数	合格者数	合格率(%)	不合格者数	留年者数	除籍者数
Ⅰ部交通機械	159	157	2	149	94.90	8	0	0	152	133	19	76	57.14	57	0	0
Ⅱ部交通機械	87	86	0	78	90.69	8	1	0	77	72	4	21	29.16	51	1	0
短大	344	324	0	291	89.81	33	19	1	333	308	6	124	40.25	184	18	1
計	590	567	2	518	91.35	49	20	1	562	513	29	221	43.07	292	19	1

●59年度

学科	認定試験（2級ガソリン） 申込者数	受験者数	未受験者数	合格者数	合格率(%)	不合格者数	留年者数	認定試験（2級ジーゼル） 申込者数	受験者数	未受験者数	合格者数	合格率(%)	不合格者数	留年者数
Ⅰ部交通機械	143	140	3	139	99.28	1	0	132	123	9	58	47.15	65	0
Ⅱ部交通機械	71	69	2	59	85.50	10	0	53	43	10	2	4.65	41	0
短大	360	351	0	330	94.01	21	9	355	338	8	104	30.76	234	9
計	574	560	5	528	94.28	32	9	540	504	27	164	32.53	340	9

■長崎県支部

61年1月 長崎県支部 代表者会(新年会)報告

場　所	長崎市宝町　焼鳥 安兵衛 ☎47−2887
時　間	1月11日　18時〜23時
出席者	白石、宮原、松永、吉野、土井、平尾、栗原
会　費	2,000円／1人
議　事	1，60年度総会及支部長会報告 2，61年度支部方針討議
決　議	1，支部機関紙の発行（集会ごとに） 2，支部役員再編成（春） 3，支部総会実施（秋） 4，集会案内についてはブロック別に担当者で連携を取る。(支部長にて割り当てを行う。) 5，支部独自の名簿発行 6，支部カラー、横の連帯を計る。
次　回	第一案、4月5日。第2案、4月26日

各人ワンポイント紹介(アイウエオ順)

栗原氏　NTT勤務電話をかけてください、電話機販売個人実績と成ります。2割引します。現在カラオケ、テレホン展開中、電話二四一〇〇〇九です。

白石氏　日産車新車保証担当です。当店販売車トラブル処理いたします。長崎日産自動車新車情報をください。

土井氏　自動車電送を中心に車検、事故も取扱っております。個人でやっておりますのでご希望に応じます。

平尾氏　日本製紙と取引してます。ダンボール販売、食品などの包装のラベルも取扱っております。私が社長です。希望に応じます。

松永氏　島原職業訓練所教員をやっております。生徒をあずかってくれる会社を探してます。雇用のせつはよろしく御願いします。

宮原氏　『親しい人間関係を作り自分を売りたい』の方針で長崎日産で販売をしています。自営業の経験も有ります。個人的な販売をします。

吉野氏　大村でサンダイなる会社を営み、養殖魚〔錦鯉〕などの栄養食品や鳥、豚などの養豚機材の販売をしてます。全国的に動いてます。

昭和61年度推薦・一般入試状況

学部	学科・専攻	推薦 志願者数	推薦 合格者数	一般 志願者数	一般 合格者数
経済学部	経済学科			1,864	368
経営学部	経営学専攻	2,468	223	(留6) 1,481	(留5) 253
	交通経営学専攻	1,068	182	(留7) 784	(留6) 180
工学部	機械工学科	821	136	1,010	95
	交通機械工学科	1,176	111	(留1) 1,413	(留1) 187
	電気電子工学科	971	118	(留1) 1,171	149
	土木工学科	455	104	735	107
工学部Ⅱ部	機械工学科	(社1) 154	(社1) 51	(社3) 134	(社2) 31
	交通機械工学科	(社2) 357	(社2) 102	(社3) 338	(社2) 103
短期大学部	自動車工業科	1,117	320	584	176
合計		(社3) 8,587	(社3) 1,347	(留15、社6) 9,514	(留12、社4) 1,649

(留：留学生数、社：社会人は内数)

第2回支部長会開催！

全国より参集 支部運営に関し 活発に意見交換

昨年十一月二十四日(日)、大阪心斎橋のホテル日航大阪に於て、支部運営の責任者である支部長及び校友会本部より里昇会長、支部推進部武内清利常任幹事を始め三十九人の参加者により、第2回支部長会が開催されました。

この支部長会は、支部運営を模索する中で、発生する障害を、校友会本部が積極的に吸い上げ今後の支部政策に反映させるため年一回開催しています。

会議では、お互いに悩みを持ち寄り、先発支部に学び、校友会本部からのアドバイス等、活発にして真剣な討論がなされました。

この場で、明らかになった支部運営上の障害は、支部総会への出席者地域性に根ざす問題、支部発足時の経緯―各支部代表者は、新なる会員結集を目指して諸問題を克服する増強、総会案内状の高額負担、会員住所の正確性等、今後継続的な発展に関する事項ばかりです。

これらは、現在本部が押し進めている支部設立に貴重な意見としてフィードバックされることでしょう。

支部長各位のますますの精進を期待します。

訃報

中井順吉氏
電気電子工学科教授(昭和60年6月13日)

池原正明氏
59年度機械工学科卒業(昭和60年11月18日)

相川長彦氏
工学部名誉教授(昭和60年12月27日)

岡田仁孝氏
54年度交通機械工学科卒業(昭和61年2月25日)

活躍する卒業生の紹介

島根県出雲市出身。
大阪産業大学機械工学科卒。(31歳)

永瀬忠志(ながせただし)さん

(昭和61年1月8日付
読売新聞より転載)

社会部に、いただいた年賀状は、取材先、読者、飲み屋……と数多い。そのはがきの束を見ていて「やったなあ」と、思わず叫んでしまったのがあった。

大阪市東住吉区の永瀬忠志さん(31)からの賀状。七年前に、リヤカー「田吾作」号を引っぱりながら、歩いてオーストラリア大陸を横断、二年前には同じようにアフリカ大陸横断、サハラ砂漠の縦断に挑んだ、あのユニークな冒険青年で、「リヤカー野郎の冒険」として、再三、紙面にも登場した。

永瀬さんは、学校の先生になるのがあこがれだった。大阪産業大学機械工学科を卒業後、毎年のように教員採用試験に挑戦してきたが、その度に失敗。挫折の気持ちを癒(いや)すために、孤独で過酷な徒歩冒険にチャレンジしてきたともいえる。

野宿用具を満載したリヤカーを、冒険中に盗まれたことでもわかるように、永瀬さんは決して、才走った男ではなく、むしろ、要領の悪い牧歌的な人である。

昨年五月、念願が半分だけ実り、府立東住吉工業高の臨時教員になったことは聞いていたが、正規教員になれるかどうか心配だった。それだけに、賀状の中の「教員採用試験にうかり、十二月一日付で教諭になれました」との添え書きがうれしかった。

成績ばかり優秀で、根性はさっぱりという若手先生が多いといわれるだけに「田吾作」先生の登板は、大歓迎。きっと大地のようなぬくもりを生徒の心に吹き込んでくれるに違いない。

兵庫県高砂市生まれ。
大阪産業大学経営学部経営学科卒。
魚屋の店員、一級建築事務所勤務を経て、現在ボイラーなど燃焼部品製造の信和工業会社係長。(29歳)

久谷昇治(ひさたにしょうじ)さん

(昭和60年11月12日付
朝日新聞より転載)

第一回朝日創作おもちゃコンクールで朝日新聞社賞を受けた「ケン玉ソフト」は、八月、三つになった長男潤平君の誕生プレゼントに作ったもの。「子どもの喜ぶものを、と半年考え続けた。ソフトクリームが大好きなので、それがヒントになって」と語る昇治さんは小学生のころ図工の粘土細工で竹べらが必要になり学校へ持って行く日の早朝、父が裏庭でほうきの柄の竹を包丁で削って作ってくれた。「クギ一本打てない不器用な父が、目の前で作ってくれたその光景が、心に焼き付いて離れません」。

以来、図工が好きになり、「大きくなれば、自分も子どもの目の前で作ってやりたい」と高校時代から木工細工に打ち込んだそうです。

現在、自宅の県営住宅のベランダには、材料に使う建築廃材が山積み。アイデアがひらめくとすぐ下絵を描き、一、二日のうちに糸ノコ、カッターナイフで一気に仕上げる。これまでに小物入れ、額ぶち、輪投げ、ジグソーパズル、鳥、動物の置物などざっと六十点を仕上げた。一部はチャリティーバザーにも出した。長男が二歳のときにこしらえたキリンの置物は、かじられて原形をとどめないほど愛用してくれたそうです。

「作る現場を見せることで親子のきずなが深まる。それだけでなく、物の本当の価値を分かってくれる。優れた手づくりおもちゃも単に買い与えるだけでは、普通のおもちゃとそう変わらないと思えて」。

単車を駆ってのモトクロス、野球、魚釣り、スキー、パソコンと多趣味。今は廃車にした単車を一台、狭い室内に持ち込んで子どもの遊び道具に活用している。

チャイム

寒中に閑あり、東邦大大森病院、東京女子医大病院、昭和大病院、北品川総合病院、第三北品川病院にて死去す。事件発生より40分後に収容さる。これは明治大学生、滝口邦彦君が昨年12月30日に「勇気ある追跡」をし犯人に刺され、死亡した結末である。大学生が大学病院に入れないで死ぬ、という皮肉である。大学病院が他大学の学生だから受入れなかった、ということではないが、3つもの大学病院が受け入れなかったことは、何かが欠落している。大学病院にすべて責任があるというのではない、消防署側の問合せの仕方にも問題があったのであろう。しかし、問題は大学病院が大学の組織の中にあり、教育の一環として存在しているのである。この事件は現代の大学教育の最大の欠陥を露呈している。ひと口にいえば「大学以外の者は大学の都合に合せなさい」ということである。一般の社会ルールの中に大学がないのである。これから昭和67年をピークとする大学生の急増期をむかえるから、大学の身勝手な論理がますますとおりやすい。

この事件を契機に何のために私立大学が、大阪産業大学が存立しているのか、特と考えてみる必要がある。身勝手な大学の眼でみるのでなく、学外から社会の眼でみる。外から冷静に暖かい眼で大阪産業大学をみれば、今なにをすべきか、それは自然に浮かんでくる。

(真田　記)

大学生活をふりかえって

経営学部経営学科経営学専攻
畠　浩三さん

よく言われる言葉だけれども、長いようで短い間であった。全くその通りだと思う。しかし、その間には、はかりしれないほどの知識を得ることができたのではないだろうか。ともすれば、「最近の大学生は…」とよく言われるが、実際、勉強については、そうかもしれない。しかし、人間それ自体の成長という点についていうと、そうは言い切れないのではないだろうか。そういう意味では、大学の4年間というのは、いちばん重要な期間だったのではないだろうか。そして、その成果が発揮されるのはこれからである。つまり、大人として社会に出てからであると思う。職場に出て大学生活で得たものを十分発揮できるかどうかでこの4年間の価値がわかるのではないだろうか。そのためにも、大学を卒業したからといって気をぬかないで、これからをさらに一生懸命がんばっていかなければならないと思う。

3月20日に卒業式を迎かえるのだけれどもこれまでの大学生活をふりかえってみると、特に思い出されるのは、何といっても就職活動のことである。夏のいちばん暑い時期に着なれないスーツを着て会社訪問に行ったこと。友人といろいろな情報を交換し合い、その内容によっては、元気づいたり、おちこんだりしたこと。この時期が、大学生活の中で精神的にも体力的にも、いちばんきびしい時であったと思う。しかし、きびしい時期というのは、他に試験の時くらいで、あと思い出されるのは、楽しかったことがほとんどである。学園祭やソフトボール大会そして友人達とわいわい騒いだこと等、本当に楽しい思い出になるだろう。

それらは結局、自分で積極的に行動を起こさなければならなかった。そうしなければ、きびしい時期も乗り越えられないし、楽しむこともできなかったであろう。そのような積極性というのは今後の人生にも本当に役に立つと思う。大学生活でそのようなことを知らずしらずのうちにも身につけられた、というのも、校風のよさや教授の方達のおかげであると思う。大阪産業大学の出身者として、はずかしくない社会人になるよう今後も努力していきたいと思う。

四年をふり返って

工学部交通機械工学科
筒井　常雄さん

私の学生生活で良い思い出となって残るのは、クラブ活動や卒業研究のことでしょう。

私は絵が好きなので美術部に入りました。大学のクラブは学生生活を二倍にも三倍にも楽しくしてくれたと思います。例えば、合宿は各部員がお互いに技術交換する良い機会で友情が深まりました。画廊回りは他大学の部展を見に行くことにより、お互いに教えあい交友が深まり、合同合宿やスケッチ会、コンパ等非常に楽しい思い出ができました。大学祭は皆で一生懸命に楽しみながらより楽しい大学祭になるよう努力しています。美術部は油絵と水彩にわかれており、道具にわりとお金が必要なので、アルバイト料の半分は合宿や道具の費用になりました。しかし、非常に有意義な三年間だったと思います。

四回生になって卒業研究は情報処理を選びました。コンピュータのことは三回生までほとんど無知でしたので、前期の間は研究にならず基礎知識の勉強ばかりしていました。また、就職活動もやっていましたので、研究と呼べるようになったのは夏休みからのことでした。夏休みはほとんど休みがなく一度研究生全員でオートキャンプに行っただけでしたが、海で泳いだり、お酒を飲んだりして、非常に楽しい思い出になりました。卒論提出日も近づくと忙しくなり毎日のように学校で寝泊りして皆がんばりました。製作した無人搬送車が動いた時の感動も一生の思い出となるでしょう。

今考えてみると、大学はクラブに入らないと全く面白くない所のように思います。その点では私の学生生活は自分なりに満足しています。社会人になっても何らかのサークルに入り、自分の人生を楽しく充実したものにしたいと思います。

ありがとう!

二年前、初めて大学の門をくぐった時、あこがれの女子大生になった喜びと、どこを見ても男の子ばかりだという不安が私の胸の中を渦巻いていた。六年間女子校だった私は、女の子が見当らなかった時は本当にどうしょうかと思った。でもそんな気持ちも宣誓式が終る頃にはどこかに消えていた。と言うのも一人の女性と友達になる事が出来たからだ。それから一月もたたない間に、数少ない女の子達と友達になる事が出来たし、大学にも慣れ、男の子の友達も徐々に増えて行った。生まれて初めて手にした部品がスクータモータで、この電装部品は整備の中でも特にむずかしい所だと聞いていたので、何も知らない私にはとても苦痛だった。でも同じ班の人達や先生方が一生懸命教えて下さったので何とかパスすることが出来た。二回生になって、やっと少しは楽になるだろうと思っていたのに今度は今まで以上に厳しいレポートが待っていた。一週間に一冊は仕上げなければならない上、少しでも誤りがあればまた一週間後に提出。酷い時は、三冊も四冊も手元にある時があった。ふつう大学生と言えば、今まで以上に自由な時間があるはずなのに、この大学はまるで違っていた。本当に厳しかったと思う。でも今は、その厳しかったレポートも終え、ただ卒業だけをひかえている。とても信じられない気持ちである。が、これも私の周りにいる大勢の友達や先生方のおかげである。私を助けてくれた人達に一言「ありがとう」と言いたい。

短期大学部自動車工業科
才野木　栄理子さん

「学園創立60周年並びに大学開学20周年記念事業募金について……」

昭和60年4月1日から、昭和62年3月31日を募金期間として行なわれている右記の記念事業募金に対して、寄付を下された校友会関係者は次の通りです。

尚、校友会を通して募金をされた方には一口(五千円)に付きベルト又はバックル(校友会特製)を記念品としてお渡ししております。

学外　辻　治雄　殿(交短1期卒)
　　里　昇　殿(〃2期卒)
　　村田　陽行　殿(〃5期卒)
　　森本　克彦　殿(〃10期卒)
　　栗生　敬五郎殿(〃12期卒)
　　池田　義隆　殿(〃14期卒)
　　稲田　稔　殿(〃16期卒)
　　川上　晋一　殿(〃16期卒)
　　梅原　一男　殿(産大1期卒)
　　山本　孝文　殿(〃2期卒)
　　花崎　博美　殿(〃3期卒)
　　森西　進　殿(〃4期卒)
　　山本　明　殿(〃6期卒)
　　三浦　政治　殿(〃6期卒)
　　岡野　和也　殿(〃6期卒)
　　林　大行　殿(交短2期卒)
学内　杉岡　重武　殿(〃3期卒)
　　清野　達夫　殿(産大1期卒)
　　浅田　弘太郎殿(〃10期卒)
　　真田　卓克　殿(交短12期卒)
　　東芝　立　殿(交短13期卒)
　　大植　義夫　殿(交短5期卒)
　　高浪　洋一　殿(交短14期卒)
　　梅本　昌則　殿(〃15期卒)
　　大平　和昭　殿(産大2交短15期卒)
　　大久保　修　殿(産大5交短15期卒)
　　兎澤　健三　殿(産大1交短15期卒)
　　木村　寛　殿(交短16期卒)
　　花野　元哉　殿(〃16期卒)
　　竹田　省蔵　殿(産大1期卒)
　　中村　悠一郎殿(〃2期卒)
　　金住　順二　殿(〃3期卒)
　　磨家　正明　殿(〃3期卒)
　　松本　章　殿(産短4期卒)
　　森川　勝吉　殿(〃5期卒)
　　金丸　勝春　殿(産大4期卒)
　　吉川　浩美　殿(〃6期卒)
　　石井　清　殿(〃8期卒)
　　峠　孝尊　殿(〃8期卒)
　　金岡　正信　殿(〃8期卒)
　　上垣　准三　殿(〃8期卒)
　　中島　理宏　殿(〃9期卒)
　　井上　吉昭　殿(〃9期卒)
　　加藤　史雄　殿(〃9期卒)
　　福井　義員　殿(〃10期卒)
　　大瀬戸　善典殿(〃10期卒)
　　平野　明彦　殿(〃11期卒)
　　吉田　秀雄　殿(〃16期卒)
　　平田　房雄　殿(校友会担当)
以上49名

お詫びと訂正

第29号(昭和60年11月1日発行)の誤植を訂正し、お詫び申し上げます。

●2ページ

(正)　大阪産業大学学長　會田俊夫(あいだとしお)

(誤)　大阪産業大学学長　曾田俊夫

昭和60年度 学生団体助成金

クラブ・団体名	支給額
柔道部	396,000
剣道部	307,000
硬式野球部	743,000
サッカー部	150,000
ラグビー部	128,000
アメリカンフットボール部	248,000
応援団	70,000
ゴルフ部	112,000
日本拳法部	100,000
巍桜流拳法部	80,000
山岳部	30,000
ヨット部	86,000
ボディビル部	60,000
サイクリング部	90,000
テニス部	100,000
弓道部	140,000
少林寺拳法部	102,000
空手道部	75,000
陸上競技部	48,000
卓球部	63,000
電子計算研究部	77,000
観光研究部	75,000
落語研究部	130,000
映画研究部	55,000
単車研究部	73,000
美術部	73,000
写真部	33,000
鉄道研究部	57,000
軽音楽部	73,000
ユースホステルクラブ	40,000
内燃機関研究部	77,000
社会問題研究部	31,000
吹奏楽部	73,000
合計	3,995,000

校友会活動報告

昭和60年10月11日……常任幹事会
昭和60年10月15日……支部推進部会議
昭和60年10月30日……学内代議員会
昭和60年11月17日……福井県支部結成総会
昭和60年11月19日……学内代議員会
　支部推進部会議
昭和60年11月24日……第16回代議員会・総会(ホテル日航大阪)
　①昭和59年度会計報告
　②会計監査報告
　③学園記念事業への寄付
　④その他
　第2回支部長会
昭和60年11月28日……編集部会議
昭和60年12月3日……学内代議員会
昭和60年12月16日……支部推進部会議
昭和60年12月17日……常任幹事会
昭和60年12月21日……幹事会(ホテルエコーオオサカ)
　①昭和61年度予算について
　②第17回代議員会について
　③総会の反省について
　④その他
昭和60年12月25日……常任幹事会
昭和61年1月7日……新春懇談会
昭和61年1月11日……大学支部総会
昭和61年1月18日……幹事会(ホテルエコーオオサカ)
　①昭和61年度予算について
　②第17回代議員会について
　③積立金について
　④その他
昭和61年1月27日……編集部会議
昭和61年2月9日……第3回三重県支部総会
昭和61年2月15日……第17回代議員会
　(鳥羽シーサイドホテル)
　①昭和61年度予算について
　②会報購読料に関する規程の改正について
　③その他
昭和61年2月23日……第5回岡山県支部総会

ご結婚おめでとう

10／12	深海秀友さん	土木	12期卒
10／13	金　文吉さん	土木	12期卒
11／3	野勢雄二さん	交機	8期卒
11／3	大石隆祥さん	土木	13期卒
11／10	山本正人さん	機械	16期卒
11／16	西垣　覚さん	機械	16期卒
11／17	東本栄次郎さん	交機	9期卒
11／23	妹尾政始さん	経営	15期卒
12／14	岡本寛実さん	短自	11期卒
2／2	森崎浩二郎さん	機械	15期卒
2／2	阪口　太さん	土木	16期卒
2／22	橋本安司さん	機械	11期卒
2／23	川岸正典さん	機械	11期卒

昭和61年度

校友会総会

今年ほどにぎやかで、盛大な総会は、いままでなかった。

昭和60年11月24日（日）
場所　ホテル日航大阪
第16回、代議員会
司会　籠谷　正則氏
議長　大平　和昭氏
副議長　近藤　周二氏
（新潟県支部長）

予定されていた議事も終了する。その他に、永く校友会役員や支部役員をやってもらった方に、感謝状を出してはどうかという意見が出た。またクラブ以外の一般学生にも、福利援助的なことをすればどうかと提言があった。これらについて、具体的に実施可能な方法があれば、考慮して行くこととなった。

華やかな懇親パーティ

にぎやかなパーティのスタートとなった。女性の司会者の声で進行して行く。「ヨイショ」「ヨイショ」「ヨイショ」の声で鏡開きとなる。会長は高らかに乾杯の音頭をとる。

支部旗の贈呈に移る。
○新潟県支部　○関東支部　○三重県支部　○奈良県支部（名称変更）

熱気ムンムンの後はまちかねたショーから福引へ。

「宮川左近ショー」三味線の音も掛合いも、場内にひびき渡った。特賞でビデオを当てて観声も上る。「ヤー」と肩をたたき合う白髪の校友もあり、ジュニアの子供も駆回る。子供の手土産もたらずごめんなさい。四百名もの出席者があり、運営の役員さんご苦労さん。